

氏名	堀 圭 介
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博甲第 4318 号
学位授与の日付	平成 23 年 3 月 25 日
学位授与の要件	医歯学総合研究科病態制御科学専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当)

学位論文題目 Lugol-voiding lesions are an important risk factor for second primary squamous cell carcinoma in patients with esophageal cancer or head and neck cancer
(ルゴール不染域は食道、頭頸部扁平上皮癌患者における第二の原発癌の重要なリスクファクターである)

論文審査委員 教授 吉野 正 教授 八木 孝仁 准教授 内藤 稔

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

多発ヨード不染域 (LVLs) は食道、頭頸部癌患者における第二の原発癌 (重複癌) 発症のリスクファクターであるが、その重症度と重複癌発症の厳密なリスクについては報告されていない。

1999 年 1 月から 2009 年 1 月に新たに診断された頭頸部癌、及び食道癌患者 1060 名を対象として多発ヨード不染域の重症度と頭頸部、食道領域の同期性、異時性癌の関連を調査した。

LVLs の重症度を内視鏡視野あたりの不染域の数、最大径により各 3 カテゴリーに分類した。1060 名のうち、355 名は頭頸部癌単独、646 名が食道癌単独、59 名が同期性食道、頭頸部重複癌患者であった。同期性重複癌の解析結果にて LVLs の視野あたりの数が増大するに従い重複癌の合併率が上昇し、最大径が増大するに従い合併率が上昇した。多変量解析にて 20 個以上の LVLs、10mm 以上の最大径が重複癌の独立した危険因子であった。異時性癌の発症率に対する解析では、視野あたりの LVLs の数の増加、LVLs の最大径の増大に伴い後期異時性重複癌の発症率が高かった。

論 文 審 査 結 果 の 要 旨

食道癌、頭頸部癌において多発ヨード不染域の重症度と重複癌リスクについて検討した。1999 年から 2009 年に診断された頭頸部癌および食道癌患者 1060 名を対象として、多発ヨード不染域の重症度と同期性、異時性癌の関連をヨード不染域を数と最大径により 3 カテゴリーに分類して検索した。その結果、1060 名中 355 名は頭頸部単独、646 名が食道癌単独、59 名が同期性食道癌、頭頸部重複癌であった。同期性重複癌の解析ではヨード不染域数が増加するに従い重複癌の合併率が上昇し、最大径が増大するに従い合併率が上昇した。多変量解析にて 20 個以上の不染域、10 mm 異常の不染域が独立した危険因子として挙げられた。異時性でも数と最大径に伴って重複癌の発症率が高率であった。

実験の目的、手法、結果とその解釈とも適切になされており、食道癌、頭頸部癌に関する重要な知見を得たものと評価される。

よって、本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。